

2018.7.4(水) 第2回学び合いの授業づくり 研究授業!!

7月4日(水)に、本年度第2回目の「学び合いの授業づくり公開研究授業・公開研究協議会」を実施し、「学びの共同体スーパーバイザー」の馬場宏明先生に来校いただき、本校の学び合いの姿を見ていただきました。

研究授業では、2年生の国語の授業を本校の杉山奈緒先生に提案していただき、本校教員と市教委指導主事の先生方の参観がありました。杉山先生の授業では、「敬語の種類や使い方を理解させる」ことをねらいとして授業が展開されました。

授業のはじめに、授業者からグループ学習の約束(学び合いのポイント)の提示と確認があり、生徒達は男女4人一組のグループを作っていました。欠席している生徒の机もグループのメンバーが動かしピツパリひっつける場面を見ることもでき、ほほえましく、暖かさを感じました。

授業では、まずは、共有の課題として教員自作の手紙文から「誤った敬語を使っている箇所を直す」課題がありました。「誤っている箇所は4カ所」という授業者の言葉から、今までの授業ノートから敬語(丁寧語・尊敬語・謙譲語)の確認(復習)をしながら必死になって、黙々とその箇所を探す生徒の姿(学びの姿)を観ることができました。

さらに、授業者が個人を指名することにより、指名された生徒が前に出て、皆に誤っている箇所を答えるだけでなく、その理由(根拠)を説明しながら発表もできており、子どもたちの成長の姿を見ることができました。また、個々の生徒の発表に対して授業者が「〇〇さんの説明でわかったかな?」、「今の発言、どう思う?」などと尋ねながら、生徒の発表を他の生徒の言葉でつないでいく場面も見られました。

次に、ジャンプの課題では、太宰治の「走れメロス」の一節が載った文章が個々の生徒に配布されました。そこには、「敬語が使われている箇所に線を引き、その敬語が、丁寧語か、尊敬語か、謙譲語かを答えなさい」、さらに「敬語は全部で18カ所あります」と付け加えられていました。文豪の名文の一節であること、探す敬語の数が示されたこともあり、子どもたちは夢中になって提示された文章に線を引き始めました。しばらくすると、グループのメンバーに「わかりません、教えて」と言える生徒も出てきて、協同的な学びが展開されていきました。

その後、指名された生徒が、理由(根拠)を言いながら皆に敬語の説明をしていく場面、その説明に対して質問する生徒の姿、皆が夢中になってジャンプの課題に取り組めた1時間でした。



共有の課題 まずは独りで考えよう



発表(前を向いて発表させる工夫)



理由を言いながら発表する



スーパーヴァイザー(馬場宏明先生)



訊き聴き合う



ジャンプの課題に取り組む 考える



根拠をもとに発表させる

《研究協議会》



教員相互の学び合い

○研究協議会(スーパーヴァイザーからの助言)

- ・子どもを主体にした授業であった
- ・質の高い課題に取り組ませたことで夢中になった
- ・子ども達は考えるようになってきたが、聴き合えるようにはなっていない
- ・「わからないから教えて」と言える子に育てる
- ・発表は子どもの言葉でつないでいくようにする
- ・発表することで、わかったことが記憶に残る



グループで話し合った内容を発表し共有する

2018. 7. 4 学び合いの授業づくり研究授業・研究協議会

授業者 杉山奈緒

学年教科 2年 国語

ねらい 敬語の種類や使い方を理解させる

協議会 馬場宏明先生の講話より

- ①子どもを主体にした授業になった
- ②「今の説明で、わからない子、いない？」と子どもに問い返しながら授業が進む
- ③授業に集中させるための課題(太宰治「走れメロス」)が良かった
この教材(課題)を選んだのが今日の授業の成功の賜物
- ④子どもたちは考えるようになってきたが、聴き合えるようにはなっていない。
聴き合う関係にはまだ育っていない
- ⑤「わからないから教えて」と言えるようになる子に育てることが大事
- ⑥グループに入る前に、グループの約束を確認したことが良かった

学び合いのポイント

- ・基本的には個人の活動です(まずは独りで考えよう)
 - ・わからなかったら友達に「教えて」と言おう(わからなかったら訊こう)
 - ・聞かれた人は、解き方を教えるか、一緒に考えよう(訊かれたら応えてね)
 - ・一人で頑張る人に無理に教えようとしな(訊かれるまでは教えない)
- ⑦授業のはじめの復習をさせなくても、グループになれば独りで復習を始める
 - ⑧説明させる場面で、子どもはただ「答え」を言うだけでなく、理由を言いながら説明で きている
 - ⑨子どもの説明を子どもでつないでいく
「〇〇さんの説明でわかったかな?」「今の発言、どう思う」
「わからない子、いない?」
 - ⑩発表することで、わかったことが記憶に残る
 - ⑪「わかりません、教えて」と言える子がいた。子どもたちは育っている
 - ⑫『黙っていたら教えてもらえる』と思う子にしてはいけない。
教えてくれるのを待つ子にしてはいけない。待つ子は卑屈になる、恨む子になる
 - ⑬指名は、グループを指名するのではなく、個人を指名する、ギリギリの子を指名する

協同的な学びの授業の観点(馬場宏明先生)

- * 声のトーンは低いか
- * 一人残らず参加しているか
- * 誰も独りにしない、誰の見捨てない
- * 安心できているか
- * 夢中になっているか
- * 訊き聴き合いができているか
- * 学びと学び合いがあるか
- * 質的に高い課題であるか